

安倍喜平(アベキヘイ)

江戸時代末期・明治期の教育家,実業家

生年 天保 12 年 7 月(1841年)

没年 大正 4(1915)年 2 月 10 日

出生地 淡路国三原郡湊村(兵庫県)

旧姓(旧名)浜西

経歴

淡路湊村の浜西家に生まれ、治郎作に養われて安倍氏を嗣いだ。

幼名を岸之助、瑞穂と称し、別に禾葉と号した。

幼くして和漢学を林滄浪・中田南洋・松野真維に、算数を福田理軒に、皇学を  
大國隆正に学ぶ。

慶応 2 年(1866 年)郷里・淡路で家塾・積小軒を開き、大正 3 年まで青年子弟  
の訓育に当たる。この間、明治維新後の 10 年には「淡路新聞」を創刊、これ  
は後日の東京報知新聞生誕の遠因を成す。

また洲本港と洲本川の改修、大阪航路の開発、紡績会社の創設、教育の刷  
新などに尽力、生涯を通じて人材育成、思想善導、文化開発、交通通信の改  
善、殖産興業の助長など、大いに社会に貢献した。

一方、太陽時計台、伸縮儀(測量機)、積小儀(歩数自計器)など多くの発  
明品と、「国語学目標」「祝詞考」「淡路古今紀聞」など多数の著書を残した。

淡路は明治維新をどのように迎えたか

・廃藩置県が終わった頃の明治 4 年 8 月に散髪脱刀令が出された。それま  
で武士は髷を結い庶民は斬髪などだった。勘違いして強制的に散髪させら  
れると思い騒動となった。

・明治 4 年頃から庶民も電報を使えるようになった。その頃のエピソードとし  
て、攘夷派の人たちはいやしくも神の国に針金を張るなどもってのほかだ  
ということで、電線の下を扇子をかざして通った。また、勘違いして電線に  
手紙を括り付けた人もいた。

・明治 5 年 11 月に太陰暦から太陽暦に変わった。明治 5 年の 11 月 30 日が

終わり、12月1日から太陽暦の明治6年1月1日となり元の12月が無くなった。

・明治の冒頭、淡路島には3つの困難が横たわっていた。1つ目は、明治3年5月11日に洲本で起こった庚午事変。2つ目は、農業の不振、新しい産業が無かったことで経済的な困難を抱えていたこと。もう1つは、周りが海で地理的に不便であったため、島外の情報が淡路島に入って来なかったことである。

・廃藩置県によって侍たちが持っていた身分が無くなり、扶持が10分の1に減らされた。洲本の場合、蜂須賀氏の元で武士階級が蜂須賀氏直属の家臣と家老稲田氏の家臣の2つあり、位が違っていた。明治維新で士族平民という身分に分けられ、稲田氏は士族より一つ下の卒族にされた。それに対して稲田氏の家臣が士族として扱って欲しいと藩に訴えたが取り上げてもらえず、明治政府に陳情した。その後、稲田氏側に有利な裁定が出そうになり、それに怒った蜂須賀氏側が100人の侍と800人の農兵が大砲、銃を持って洲本のまちを攻めた。それに対して稲田氏側は、朝廷に恭順の意を表して無抵抗で通した結果、死者、消失家屋を多数出し、一方的に蜂須賀氏側の勝利に終わった。これを庚午事変と呼んでいる。この処分は、蜂須賀氏側に対しては斬首、切腹、流島の処分が下された。稲田氏側は北海道開拓を命じられ、結果的に両成敗となった。明治3年6月に津名郡志筑・室津以北の五十三カ村浦が兵庫県に移管された。これは、蜂須賀氏側の農兵800人が志筑以北の者であったからだ。

・明治4年11月には、徳島県を名東県と改め、淡路全域は名東県に属することになった。この時の兵庫県は、神戸の港周辺の小さな県であった。

・明治維新の改革は徐々に進み、明治5年に学生発布。明治6年には地租改正。物納から金納になり、明治政府の基盤を作る税制改革を行った。

・まだ明治の改革が始まった時代に、明治7年に、土居光華が『近世女大学』という本を出版した。女性の権利が蔑まれていたが、女子にも一人の人間

としての権利があるということを主張した。福沢諭吉も女性の解放について書いた『女大学評論』を出版したが、土居光華が『近世女大学』を出版した数年後であった。

年表・明治淡路の政・経・文・教」から先人の活躍を知る

・明治7年、自由民権運動が土佐の立志社、阿波の自助社の設立から起こった。明治8年には自由民権運動の流れが阿波の自助社を通して自助社洲本分社が設立され、新しい政治の動きが起こってきた。

・明治8年、洲本師範学校が開設された。数年後には神戸の師範学校に吸収されたが、教育に対する関心が高かった。

・明治9年には、活版印刷が始まったばかりの時代に、安倍喜平が洲本に活版所を開いた。安倍喜平は明治10年に淡路新聞を発行した人物。安倍喜平は淡路からあまり出たことがなかったが、弟子を東京に派遣して印刷技術を習得させた。

・安倍喜平は、明治12年に淡路汽船会社の設立に関わった。その他にも、淡路で初めて東京から有名な人物を呼ぶなどして講演会を開いた。淡路に婦人会並びに商工会をつくって会長になった。淡路島の文明開化はこの人に以って始まったのではないかと評価されている。

・明治11年、英国人イートンが淡路を旅し、三原地頭方村の沼田存庵を訪ねる。明治時代に初めて淡路島に来た異国人で、明治14年に『淡路島遊記』を出版した。

・明治13年、淡路汽船が定期便を運航したことによって開かれた島になった。

・明治13年、蔭山守彦らが佐野東山牧場を開設。蜂須賀氏時代には牧畜が禁止されていた。明治14年には、佐野西山牧場が開設されて淡路島の牧畜業が非常に盛んになっていった。

- 明治 13 年、津名郡都志村の高田敬一らが政治学習結社「講法会」を結成、明治 14 年、河上村、塔下村などの青年による学習政治結社「自治会」が結成された。このような学習組織が中心となり、その後の自由民権運動の支え手となって全国的な広がりを見せることとなった。
- 明治 13 年に、鹿島秀磨、三木善八らの青年たちが淡路から成長しつつあった神戸市に乗り込んで「淡路共立社」を設立した。この 2 人は、後に『神戸新報』、『大阪新報』、『郵便報知新聞』の発行に携わった。
- 明治 14 年、自由民権家の植木枝盛が青木茂七郎らの招きで来島し島内で講演した。
- 明治 14 年、津名郡長の鈴木三郎が洲本・塩田間の海浜道路 4,340 メートルを整備した。
- 明治 17 年、山口恒雄らが農商務卿西郷従道に「水利土功費拝借の義」を請願したが、上手くいかなかった。
- 明治 19 年、第一回津名郡勸業会を志筑で開いた。鈴木三郎津名郡長は、津名郡では人民が困窮しており、新しい産業を興すこと、農業を活発にすることが我々の使命だと叱咤激励した。
- 明治 20 年、坂東国八が乳牛を飼育し、洲本のまちなかで牛乳を販売する仕事を始めた。坂東牛乳の名を島内のみならず、近畿圏に名を轟かせた。
- 明治 21 年、佐伯右文が私立河上高等小学校を設立した。当時、高等小学校は洲本と市村にしか無かった。
- 明治 29 年に操業を開始した淡路紡績が淡路島の産業革命の目玉となった。

•明治 34 年、西川光二郎が安部磯雄らと日本最初の社会主義政党社会民主党を結成した。この政党は即刻禁止されたが、西川光二郎を発起人として名を連ねるほどの社会運動家であった。

•明治 37 年、日露戦争が始まった時に桑島省三海軍大尉が日本海海戦で勲功を賞された。

•明治 30 年代後半から、淡路島に鉄道を敷設しようという動きが起こったが、準備しては立ち消えるということを 2、3 回繰り返した。大正時代に入ってようやく淡路鉄道が開通した。

•明治 41 年、この年に全国流行のペストが由良町に蔓延し、死者 7 名を出した。由良町の財政が破綻する中、由良に住んでいた大阪財界の政岡嘉三郎が町長になり、私財を投じて町政を救った。